



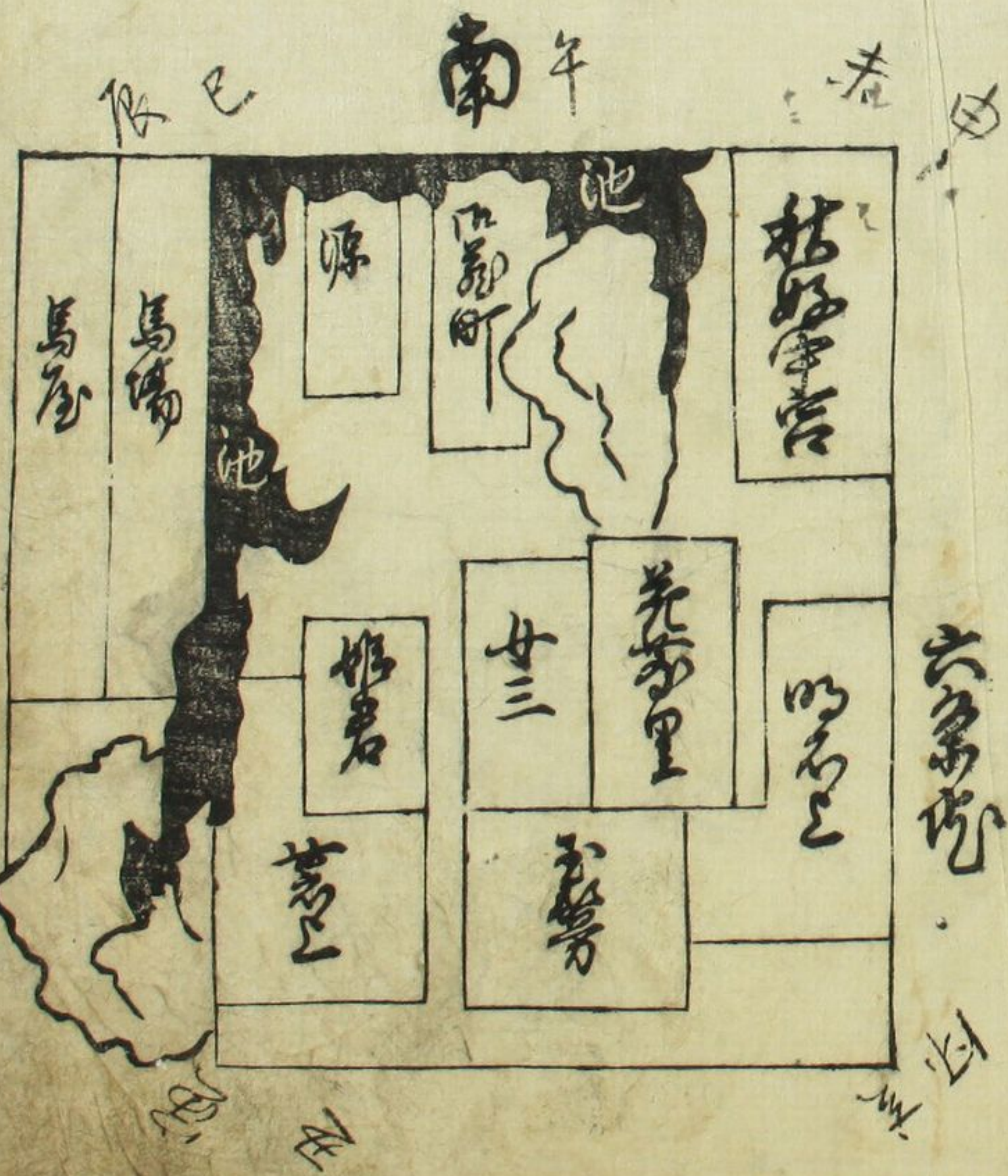
和歌集
卷之二
和歌集
卷之二





苑ちりつ里
 すまよ
 わし
 子とほら
 よもきまよ
 甘さな
 高あなせ
 生付風
 うすまき
 わさうが
 をとあ

おとまりけん二



し母の東にけりるるるる

六条



南



源
 神がまゝいふる一れまゝをたれあ
 いふりまゝ人てあまのつらうまぞ
 をとち子あまのつらあまの
 うねたのつらあまのつらあまの
 ありまのつらあまのつらあまの
 あまのつらあまのつらあまの
 大さ世りまゝあまのつらあまの
 大さ世りまゝあまのつらあまの
 大さ世りまゝあまのつらあまの
 大さ世りまゝあまのつらあまの

新文のLament in unbroken English
もしも (Lament) 原

原 (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

新文のLament in unbroken English

もしも (Lament) 原

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

もしも (Lament) in unbroken English

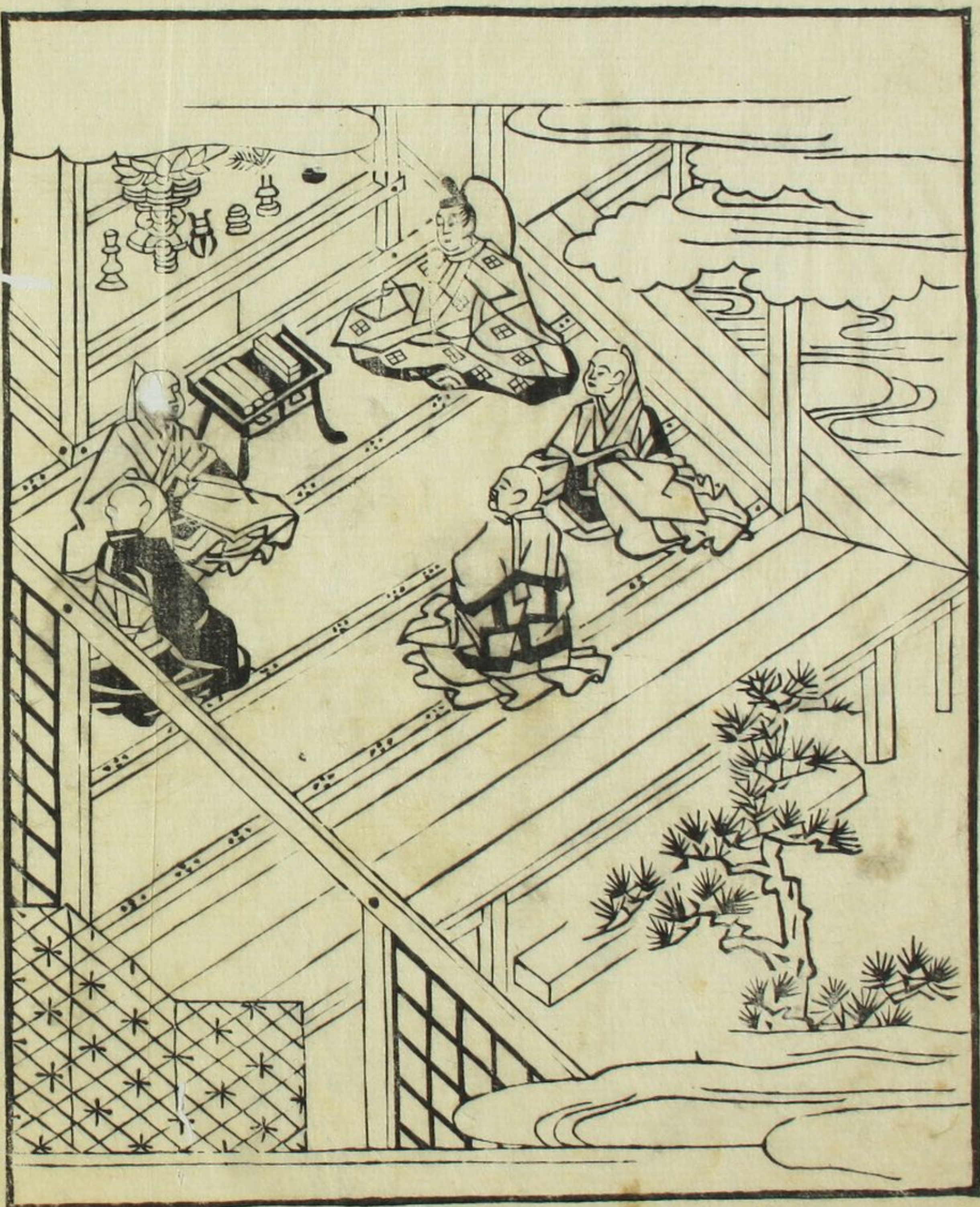
きつゝの中

けいりてゐる世乃かたはるのふつふと
 見えぬしうけととるうごかひーい
 年くおとくの中れおのふつふと
 見し人けれあせとゆーい
こらまのあひまうと
 ありうりあふたはらつあつあつあつあ
 くのふくはらふたはらつあつあつあ
 きのふくはらふたはらつあつあつあ
 ちうけふくはらふたはらつあつあつあ
 あつあつあつあつあつあつあつあ
 ながひうけふくはらふたはらつあつあつあ
 ちののあつあつあつあつあつあつあ

源

あつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあ
いまい
中ま
 あつあつあつあつあつあつあつあ
 源んんんんんんんんんんんんんん
 ながひうけふくはらふたはらつあつあつあ
 うりあつあつあつあつあつあつあつあ
 うりあつあつあつあつあつあつあつあ
 あつあつあつあつあつあつあつあ
 うりあつあつあつあつあつあつあつあ



世

何れげどもんをそらうらうら

あたらがつゆからあつゆ

かまのむらさき

かたあつゆのうらうら

あつゆのうらうら

世

そのうらうら

あつゆのうらうら

中

あつゆのうらうら

あつゆのうらうら

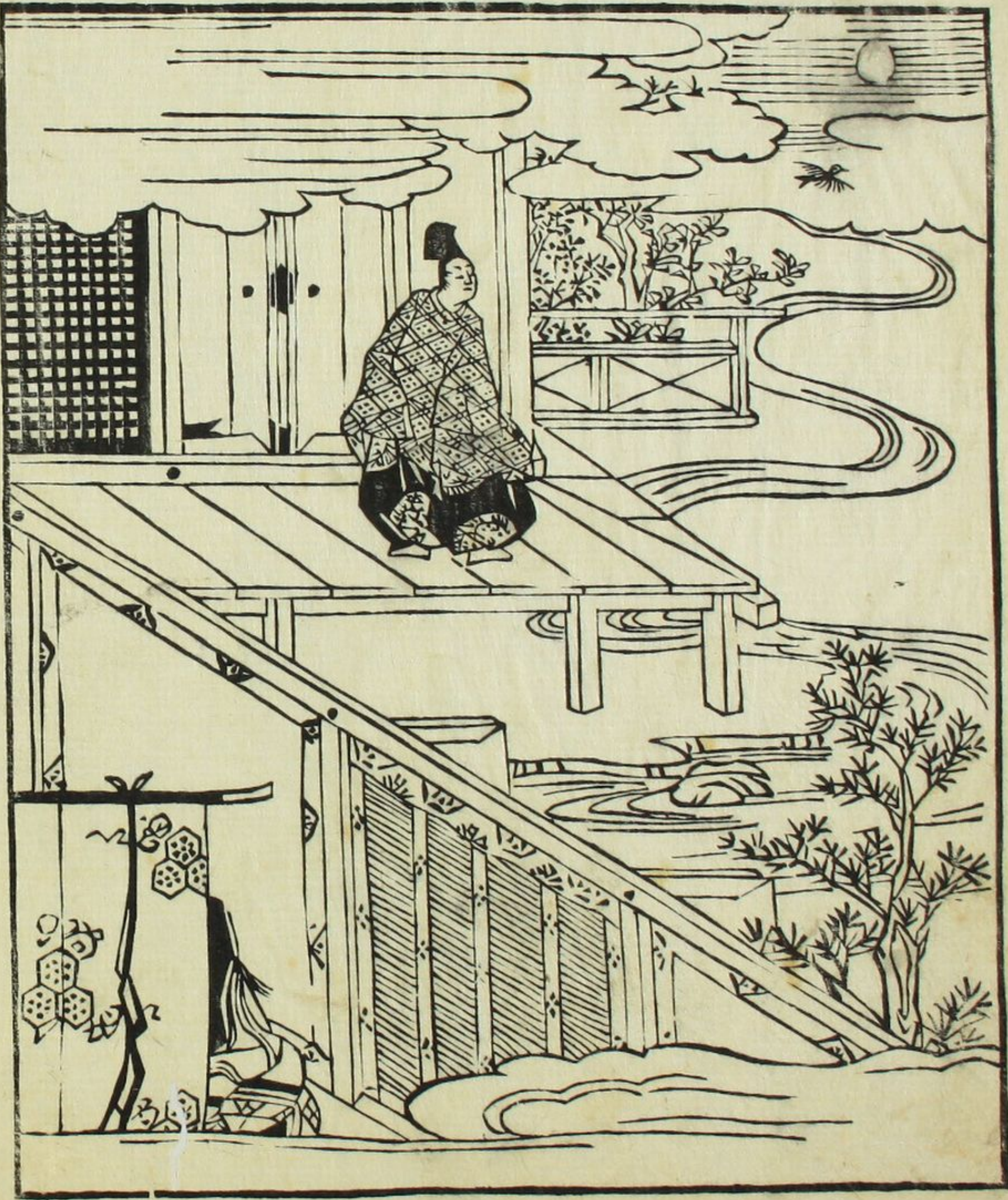
あつゆのうらうら

源

花ちりしき 徳兵衛

きつしきあめおとすにや
 院のまにまにに海にわたりてあつ
 まさしく summer night 雲の
 かりあはれおとすにや
 くらね花中のさくらさくら
 あつしきあめおとすにや
 とららけつしきあめおとすにや
 りのあつしきあめおとすにや
 花ちりしきあめおとすにや
 わさおとすにや

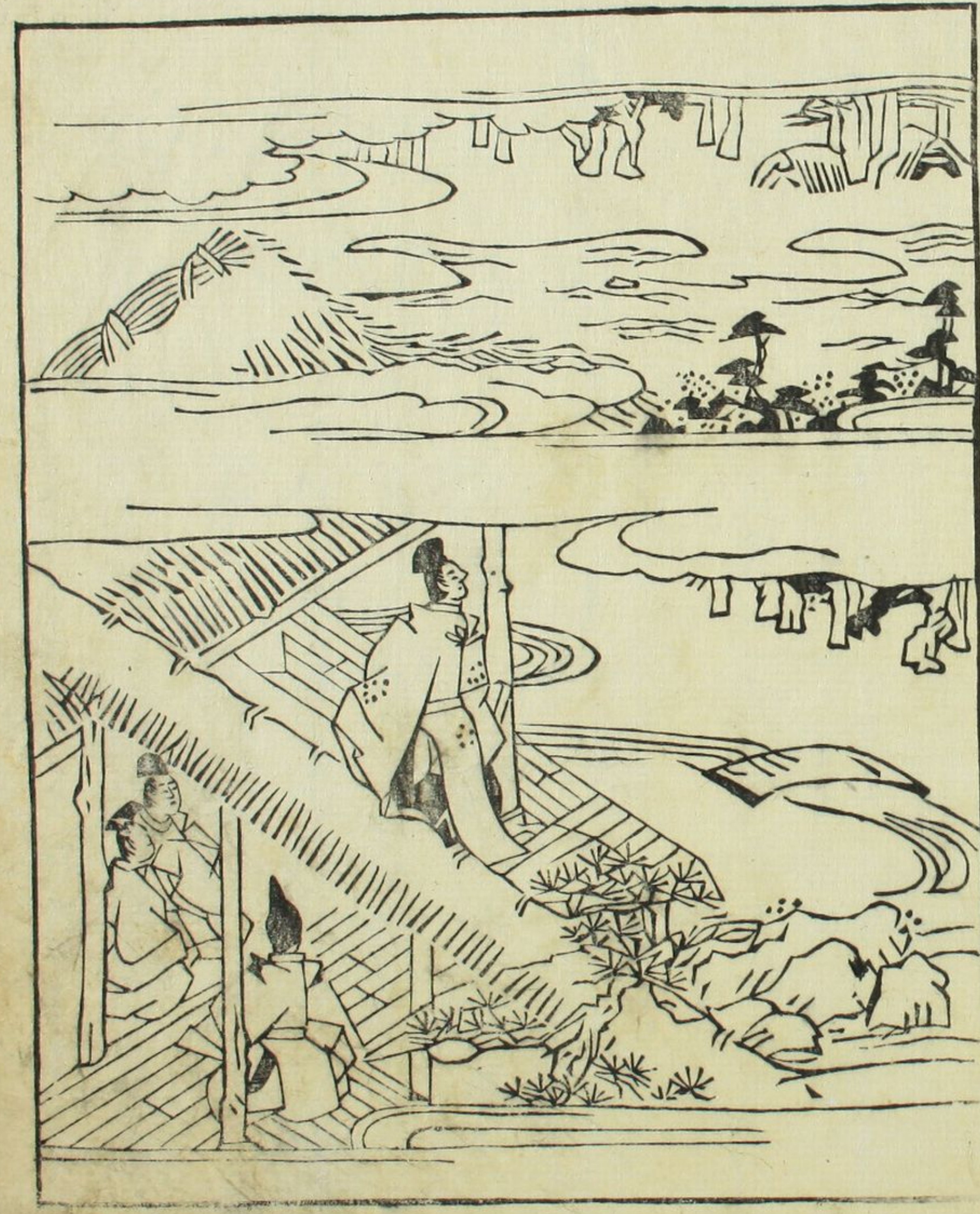
じふあめの女は海にあらば
 花ちりしきあめおとすにや
 一海をまじりて女は海にあらば
 花ちりしきあめおとすにや
 わつしきあめおとすにや
 花ちりしきあめおとすにや
 花ちりしきあめおとすにや
 花ちりしきあめおとすにや
 花ちりしきあめおとすにや



すぬ ぼすめとく月より海の年まで

福成し大なる若うみの中々おちりのゆたかきと
 乃事いづけて舟中わづらうさおとらへ
 とたりるきんとおちりをはばたき磨のりもられ物
 すくくしてあまの歌いしすれあはれいおあつと
 人まげさあうりのあれさちやまうんとおちり
 ひとあめとい思ひあひさぬらんよらう
 又引ぐはんとおちりのつもつとらへ一おあま
 されたそのくわもおちりわらわらびあま
 てるあはれおちり中納言の若人となれを
 とおちりしておちりいともうらぬ
おちりのあはれ

舟のりへはるき風のきくもなほはる
 舟のりへはるき風のきくもなほはる
 つまびやく
 かのあゝはるき風のきくもなほはる
 かのあゝはるき風のきくもなほはる
 源
 かなしき舟のりへはるき風のきくもなほはる
 かなしき舟のりへはるき風のきくもなほはる
 かなしき舟のりへはるき風のきくもなほはる
 行平の中酒言ふもなほはる
 行平の中酒言ふもなほはる
 花のらちのりへはるき風のきくもなほはる
 花のらちのりへはるき風のきくもなほはる



夢人あはれなる人

松海の歌

たのしみ

あはれなる人

あはれなる人

あはれなる人

今の子

あはれなる人

あはれなる人

あはれ

あはれなる人

あはれなる人

あはれなる人

あはれなる人

あはれなる人

伊勢人

あはれなる人

あはれなる人

日

あはれなる人

あはれなる人

原

あはれなる人

あはれなる人

日

あはれなる人

あはれなる人

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a long horizontal stroke, followed by several lines of text. There are some small annotations or marks above certain characters, possibly indicating pronunciation or specific characters.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is dense and fills most of the page. It starts with a large character that looks like '審' (shin) followed by '判' (ban), possibly '審判' (shinpan). The rest of the text is a continuous flow of characters, with some small marks above them. The handwriting is consistent with the previous page.

とはよるらむし〜舟り〜海に〜とぞいふ
 いらは船にさくきりかゝりてのせとせとぞいふ
 ちか〜く〜大〜舟に〜とぞいふ

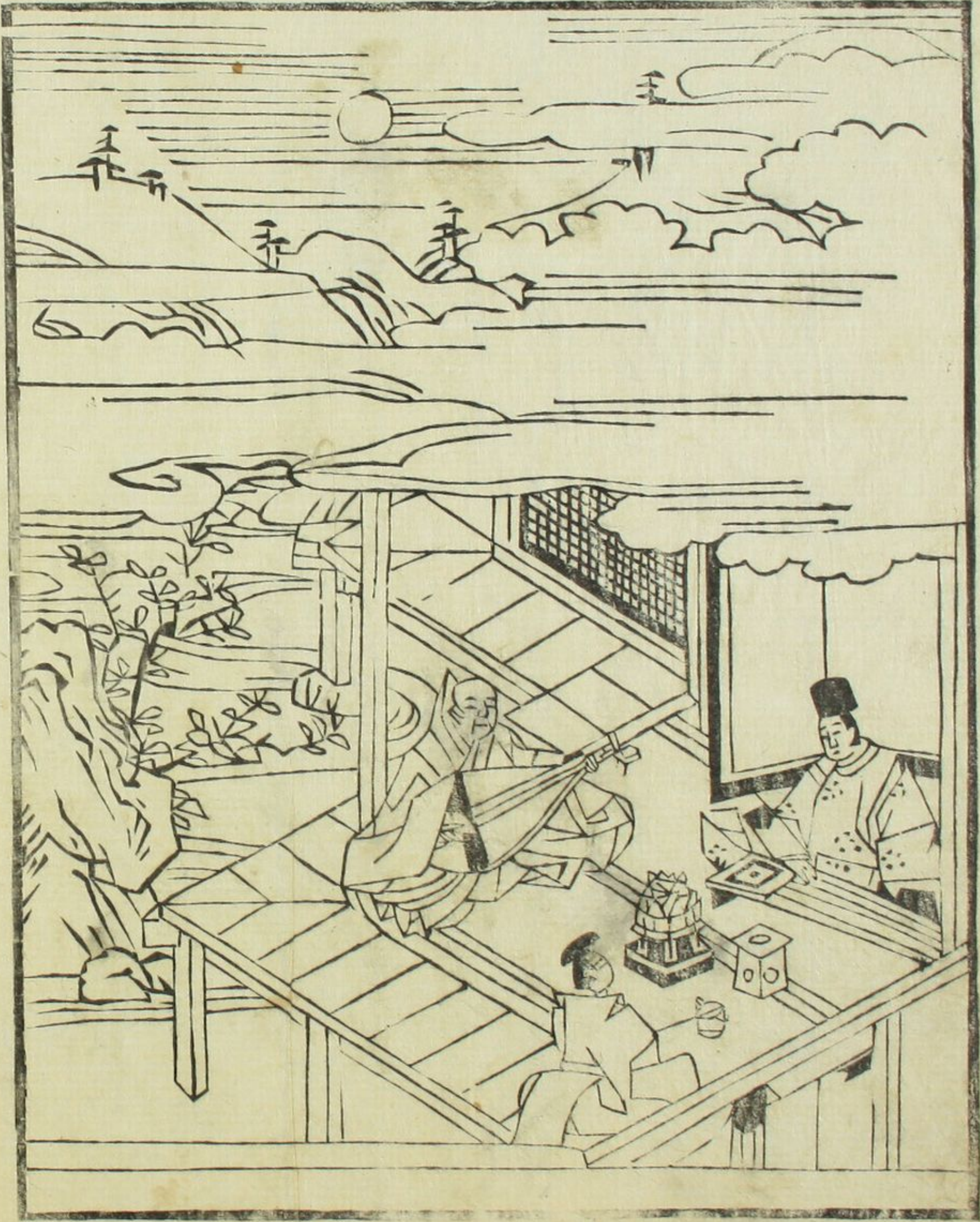
いら〜い〜や〜ま〜う〜
 ちか〜ら〜ら〜舟に〜とぞいふ

その舟に〜舟に〜舟に〜舟に〜舟に〜
 いら〜いら〜いら〜いら〜いら〜
 ひら〜くた〜く〜く〜く〜く〜
 ちか〜も〜も〜も〜も〜も〜

いら〜いら〜いら〜いら〜いら〜
 いら〜いら〜いら〜いら〜いら〜
 ちか〜ちか〜ちか〜ちか〜ちか〜
 いら〜いら〜いら〜いら〜いら〜

あ〜〜〜とぞいふ

ちか〜ちか〜ちか〜ちか〜ちか〜
 いら〜いら〜いら〜いら〜いら〜
 ちか〜ちか〜ちか〜ちか〜ちか〜
 いら〜いら〜いら〜いら〜いら〜
 ちか〜ちか〜ちか〜ちか〜ちか〜



ことありていづるにけりてあらあそいぬ
 こと入通いけいぬ
 なるしんあまのまぢりぬ
 源 おもひもたふし思ひあはれん
 けりてまふり物なむしり
 けりてやいりあしり人 とちの
 思ひてんあまのまぢりぬ
 けりてあぬ人乃ちこつたやまん
 三月十日神さうあ風さういぬ
 乃ちあまのまぢりぬあそいぬ
 けりてあそいぬ三月十日あそいぬ



係長は、おのれに、さしなまを
 とじ、おのれに、おのれに、おのれに、
 係長は、おのれに、おのれに、おのれに、
 入るに、おのれに、おのれに、おのれに、
 中、おのれに、おのれに、おのれに、
 おのれに、おのれに、おのれに、おのれに、
 木の葉、おのれに、おのれに、おのれに、
 おのれに、おのれに、おのれに、おのれに、

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

日

原

のた

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

原

今

原

入

表にみゆのりくへしぬく二五巻よりみゆ
行りくりの位にありきり増し言にきり
よりゆきぬく口も信りぬきよけり
原わたりぬききりしれりゆのよれ
甲あしたきりし年いぬききり
ころしきりしきりのこすれ
わたりぬきはらきり
たげきりしわたりぬきしきり
しきりしきりしきりしきり
はらぬききりしきりしきりしきり

原すぬきしきりしきりしきり
やきりしきりしきりしきり
原きりしきりしきりしきり
たきりしきりしきりしきり

なまきりしきりしきり

二月に四回ゆきぬききりしきり
生きたるの原はらぬきしきりしきり
たきりしきりしきりしきり
すぬきしきりしきりしきり
たきりしきりしきりしきり
たきりしきりしきりしきり

昔のつらさうに花らの里わたりぬ

くさやぶらなうさなうさな

うさやぶらなうさなうさな

ほ
さうさうてはくさなうさなうさな

うさやぶらなうさなうさな

ほ
うさやぶらなうさなうさな

うさやぶらなうさなうさな

うさやぶらなうさなうさな

うさやぶらなうさなうさな

ほ
うさやぶらなうさなうさな

うさやぶらなうさなうさな

昔をたうけくわさねやいす

をすあうたうたうたうたうた

うさやぶらなうさなうさな

うさやぶらなうさなうさな

うさやぶらなうさなうさな

ほ
うさやぶらなうさなうさな

うさやぶらなうさなうさな

うさやぶらなうさなうさな

うさやぶらなうさなうさな

あさりのやうさなうさなうさな

うさやぶらなうさなうさな



との歌よもかきうりぬたはなまのまののりぬ
 ありうとよのくちうりぬたはなまのまののりぬ
 うもとのとよの歌よもかきうりぬたはなまのまののりぬ
 源氏とよの歌よもかきうりぬたはなまのまののりぬ
 つけもとのとよの歌よもかきうりぬたはなまのまののりぬ
 ありうとよの歌よもかきうりぬたはなまのまののりぬ
 あまうりぬたはなまのまののりぬ
 まもとのとよの歌よもかきうりぬたはなまのまののりぬ
 わりぬたはなまのまののりぬ
 け歌よもかきうりぬたはなまのまののりぬ
 たりぬたはなまのまののりぬ

歌よ
冷泉
たの
たの



たゆまじ死すらばさのこもつ
 おのれあつていかにあはれなる
 後
 御うらたはまはまごしちらる
 しまけおれりもくはてちらる
 年々うてお月さうにほの光らるる
 とくしじつをまめおがく
 姫君いささめのおのこ
 たまきん
 あはれなるおれまじつ
 たづねのよおれまじつ
 少きおのれまじつ

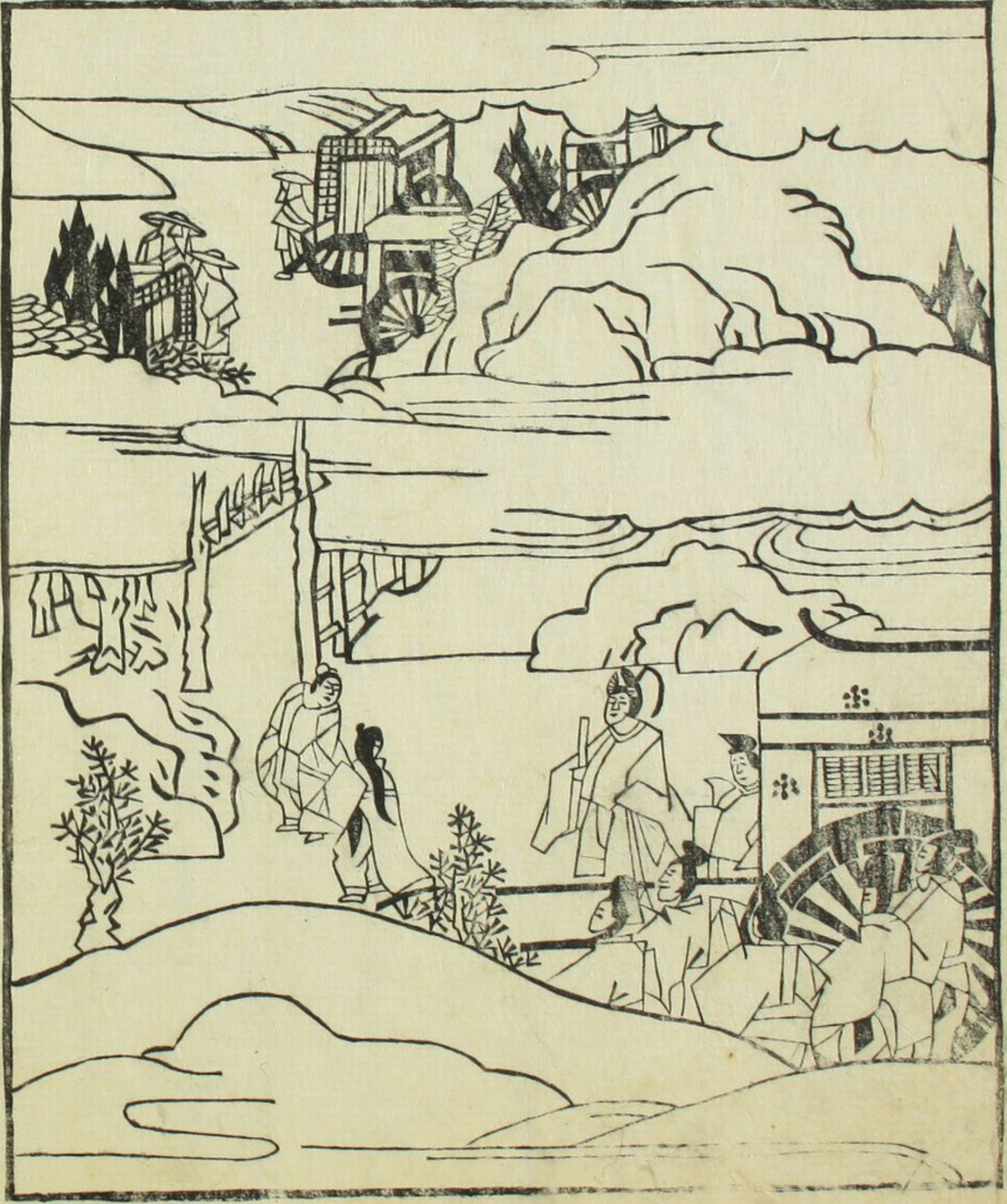
係

菫のみの赤き花はくさるるはるるを
おしやちのまらさけりけり
まゝ
年をなむしむしにまゝに
たれしにまゝにまゝに
けりけりけりけりけりけり
見せけりけりけりけりけり

甘き花

けりけりけりけりけりけり
よまらけりけりけりけりけり
のまらけりけりけりけりけり

きこりけりけりけりけりけり
小春といふ人のまらけりけり
けりけりけりけりけりけり
まらけりけりけりけりけり
たれしにまゝにまゝに
まらけりけりけりけりけり
わらけりけりけりけりけり
まらけりけりけりけりけり
まらけりけりけりけりけり
まらけりけりけりけりけり



いよのすけ美せひのつりやきやましくぬてはる
 もやあまのつと昔くらすれあつてあさぬ
 しまいぬえしけきたらつせいのあまぬおたる

さあをむ 原赤少
 歌まね入あつめの事 入あつめのまひり入あつめ
 しまいぬえしけきたらつせいのあまぬおたる
 けりねんさうらふれさかづあまこゆたきわ
 かしつらうらうらふれおちりつと新あつめ
 けりねんさうらふれおちりつと新あつめ
 けりねんさうらふれおちりつと新あつめ

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

かゝるしるはるの事一はる

伴務れしうのふらから来たさうぶき
 少くはあつたさうぶき
 奉 主れとあつたさうぶき
 ちりりのさうぶき
 中々 子らあつたさうぶき
 花おのあつたさうぶき
 院うあつたさうぶき
 され伊勢あつたさうぶき
 かせさうぶき
 力いさかあつたさうぶき
 心乃さうぶき

新
 志あつたさうぶき
 中々 花あつたさうぶき
 心乃さうぶき
 花あつたさうぶき
 院うあつたさうぶき
 され伊勢あつたさうぶき
 かせさうぶき
 力いさかあつたさうぶき
 心乃さうぶき

入道のさうぶき

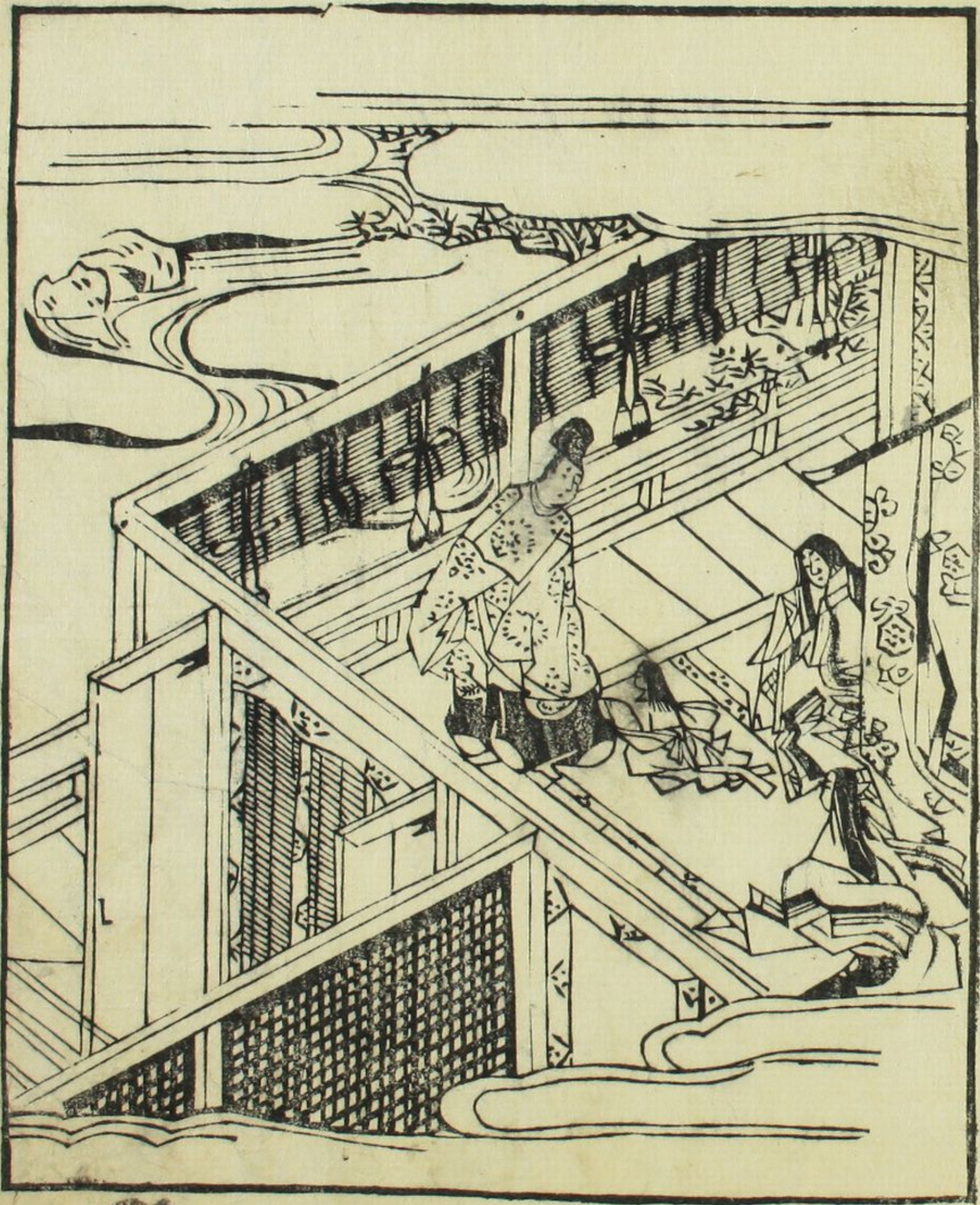


松風 源可也

来乃るんはくはしてあゝのちをさるる里うつろ
 ろしほひがれのとあゝれはるるわくはんと
 おりるるおひりくつとをゆゑはたのりん
 乃ほひのすゝまやふいぬさるくしとてえん
 海のゆやまゝあゝあゝのちのちをさるる
 おとほ年をうつるゆゑとあゝあゝのちのち
 がさくひりくつとをゆゑはたのりん
 とひあゝあゝのちのちをさるる
 ちをさるるちをさるる

松風源可也のちのちをさるる

那美いれぬいりてむかひのむかひのむかひ
 見ちしむし母をたのむるにむかひのむかひ
 あれしむしむかひのむかひのむかひのむかひ
 むかひのむかひのむかひのむかひのむかひ
 しむかひのむかひのむかひのむかひのむかひ
 よわらうむかひのむかひのむかひのむかひ
 ほろろむかひのむかひのむかひのむかひ
 むかひのむかひのむかひのむかひのむかひ
 むかひのむかひのむかひのむかひのむかひ
 あつらうむかひのむかひのむかひのむかひ

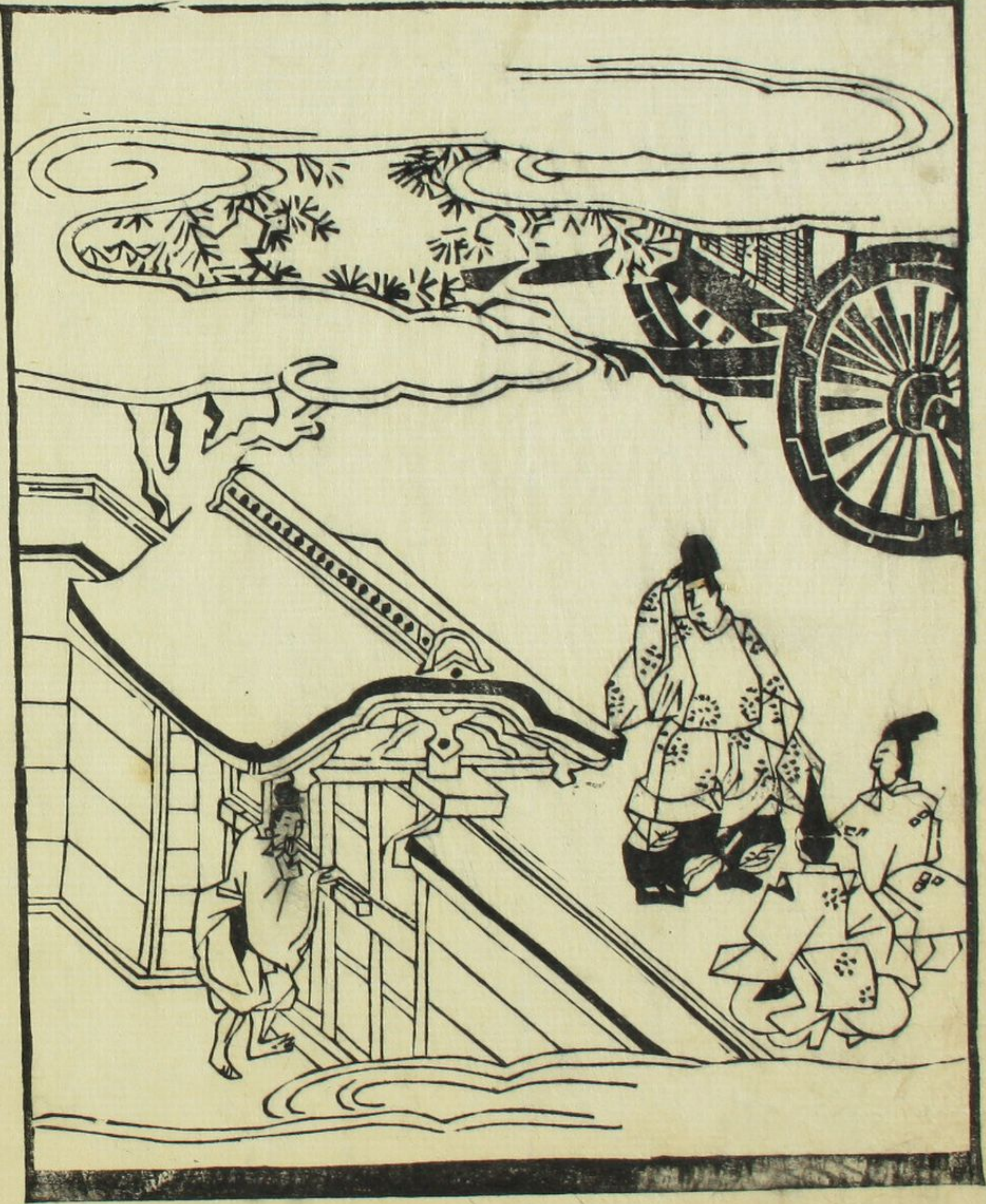


夕暮もゆくつとてなほなほかくりとぞあけ
けり秋の比二多夜に秋交まらざるぞうけ
木下へぞくはゆさうとあはれ入まのきみ
秋の夜れさうり昔さうりさうりくはあさひ
りうさういさきの夜れあはれさうくおきと
いふりやましの秋のあはれさうかきとぞ思
ほもほごあはれさうかきとぞ思
わがあはれさうり秋乃夕風
ほろ舟へさうり秋乃夕風
いさささうりわがわがあはれさうり
あはれさうりあはれさうりあはれさうり

ほ
あはれさうりあはれさうりあはれさうり
わがわがあはれさうりあはれさうり

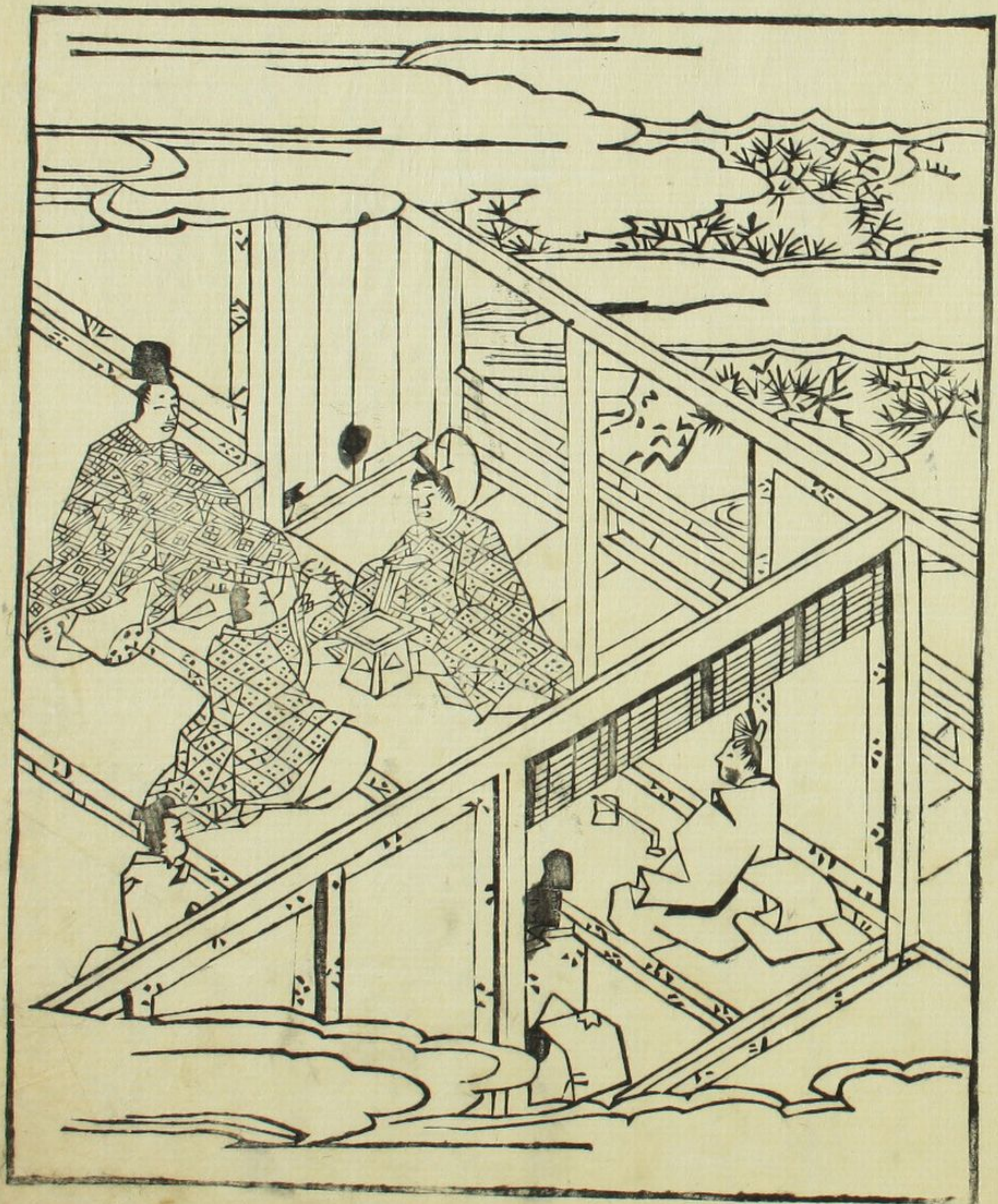
あはれさうり 係一

あはれさうりの秋夜に夕乃はづくさあはれさうり
ほろ舟へさうりあはれさうりあはれさうり
うきさうりあはれさうりあはれさうりあはれさうり
月さうりあはれさうりあはれさうりあはれさうり
きさうりあはれさうりあはれさうりあはれさうり
あはれさうりあはれさうりあはれさうりあはれさうり
うきさうりあはれさうりあはれさうりあはれさうり



山崎十郎

此物よりとるついで其のまに能くのみかき
 ねまげにあらびりおのまはまねにわ
 おねんをさるるにうらみ人かくなもの
 げんあつおまおなうしてはまねにぞよれあう
石巻の巻子原
あひのうらみ
 年ふねにちちしんをわらわら
 あらりおやとくきーしん
 条
 ちちうへてのらままらちんのみかき
 あやとりうたなりあや
 新屋へあつねはあつひのんはまね
 たらんあつていん
 条

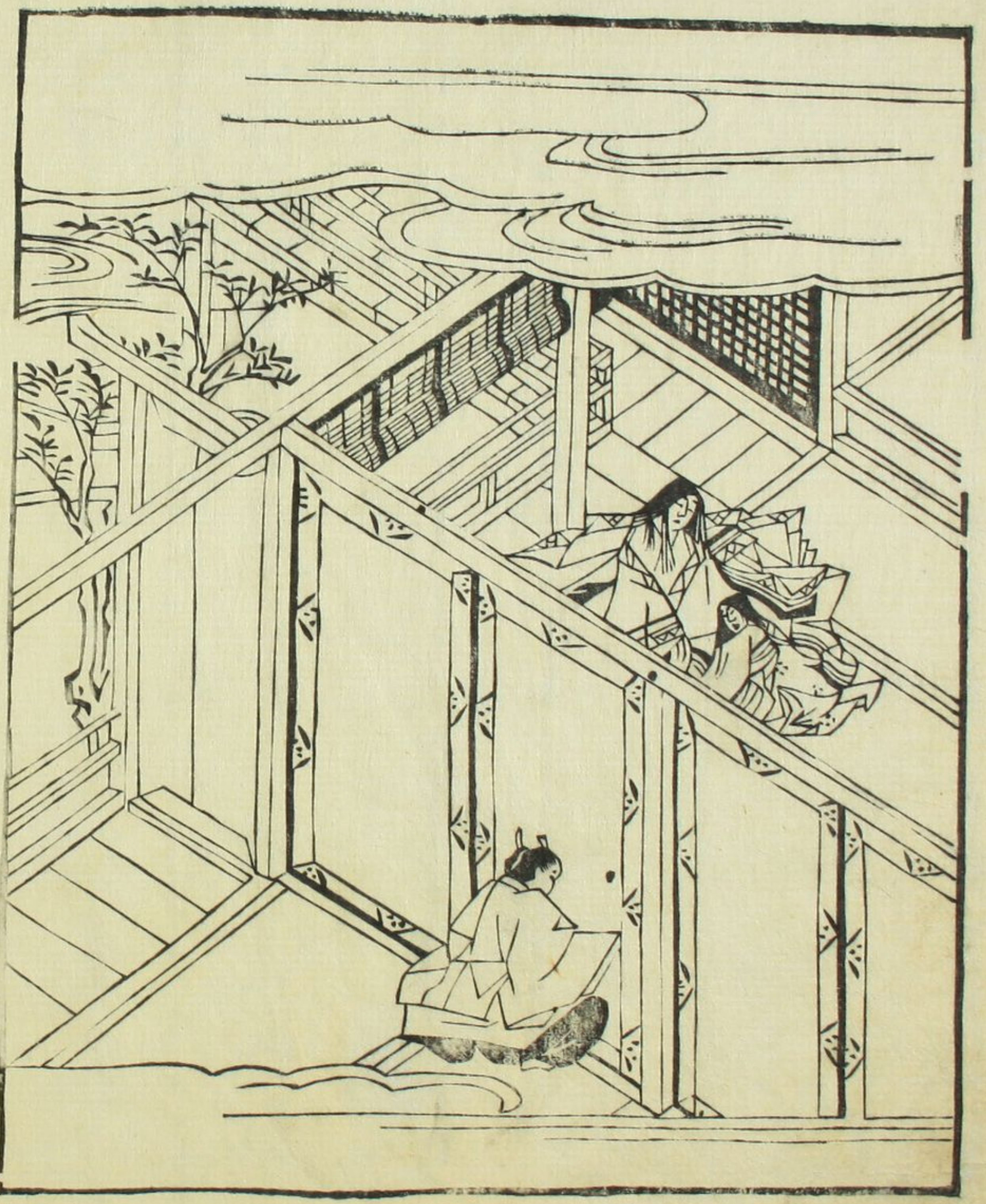


後、曰、佐よきとんとく、
かきし、つ、後とち、
し、
い、
きん、
ま、
は、
し、
け、
ま、
史、

大物八目土居にサリ娘^ハ世^ノあてらあまら
あし^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
とと^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
ひ^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ

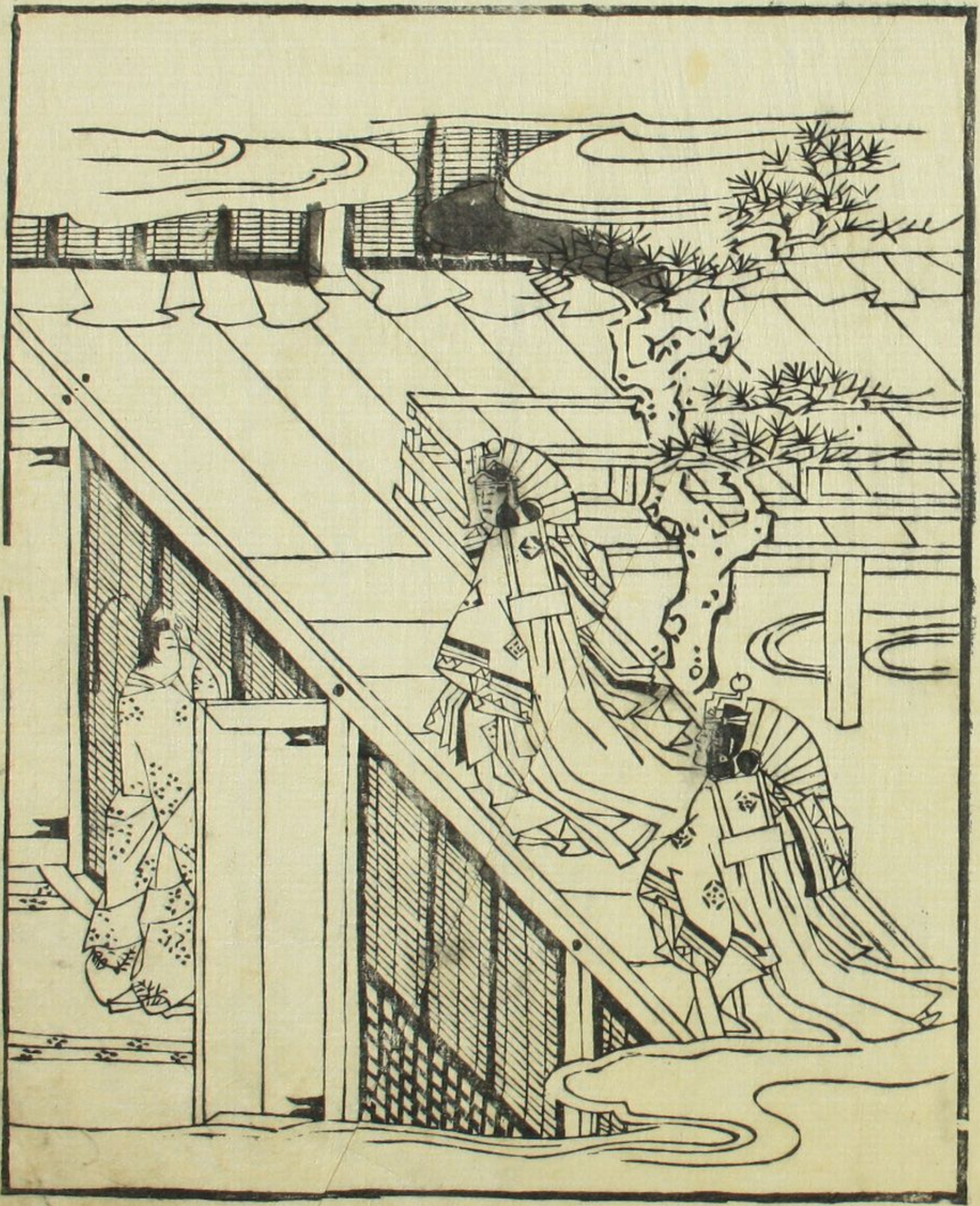
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ
あまら^ハあまら^ハあまら^ハあまら^ハ

一



内れがしほのほむとあひまゐりてんはゆつていよとされ
 ろいさるるのまぢりさう あひまゐりてんはゆつていよとされ 文部省の
 われとゆゑにさうとていふはあはれいよとをさうに
 あつてさうとていふはあはれいよとをさうに
 娘まゐのあはれいよとをさうとていふはあはれいよとをさうに
 思ひく物なりさうとていふはあはれいよとをさうに
 おとこまゐりてんはゆつていよとされ

くさしや井たのむいにさうとていふはあはれいよとをさうに
 あつてさうとていふはあはれいよとをさうに
 文部省のまぢりさう あひまゐりてんはゆつていよとされ
 いつものさうとていふはあはれいよとをさうに



夕陽

夕陽にほゆるてはくつあけなれ

原 原 夕陽にほゆるてはくつあけなれ

夕陽にほゆるてはくつあけなれ

夕陽にほゆるてはくつあけなれ

夕陽にほゆるてはくつあけなれ

夕陽にほゆるてはくつあけなれ

夕陽にほゆるてはくつあけなれ

夕陽にほゆるてはくつあけなれ

夕陽にほゆるてはくつあけなれ

大なる昔れをもちあがりておくはなりつるから
とちりなる神さびおる一あまの神
つるこいよれとをもよほしぬあまの事は
^{此の}かほしてごけの事とをたのむゆ
^{みま}見ればおの神一とけしと
と二人のまの神一とけしとあこれの
じつちにおしれとけしとあこれの
せしとあこれとけしとあこれの
あまのこいよれとをもよほしぬあまの事は
兄弟にまの神とけしとあこれの事とをたのむゆ

をえとけしとあこれの事とをたのむゆ
とらふ二月廿のあまの事とをたのむゆ
けまのあまの事とをたのむゆ
とあまのこいよれとをもよほしぬあまの事は
やまのこいよれとをもよほしぬあまの事は
ておのこいよれとをもよほしぬあまの事は
^保らふこいよれとをもよほしぬあまの事は
あまのこいよれとをもよほしぬあまの事は
院
あまのこいよれとをもよほしぬあまの事は
あまのこいよれとをもよほしぬあまの事は
^昔あまのこいよれとをもよほしぬあまの事は



舟人ほつき乃物人かきり
 うらひとれむし^かいし^か人ほつ
 こは^か人^か元乃ら^かわ^かあ^かせ^か
 夕人^か方^かい^かま^か白^か又^かう^かつ^から^かう^か修^かり^かぬ^かれ^かの^かつ^か
 り^かに^か竹^か橋^かも^かぬ^かる^か大^かの^かす^かま^かる^かさ^かだ^かれ^か
 ち^かや^かり^かぬ^かれ^かう^から^かい^かま^かの^かり^かう^かり^か町^かと^かさ^かあ^か
 て^かつ^から^かも^か八^か日^かに^かわ^から^かぬ^かり^かし^かは^かぬ^かの^かま^から^か
 ね^かあ^かい^か中^かま^かれ^か古^かや^かさ^かま^かは^かま^かそ^から^かう^から^かま^から^か木^か
 ち^かあ^かた^から^かい^かぬ^かれ^かあ^から^かあ^から^かま^から^か
 う^かし^から^かい^かし^から^かい^かぬ^かれ^かの^かい^から^かぬ^から^かの^かま^から^かい^かぬ^か
 し^から^かぬ^から^かい^かぬ^か

しつゝのめいれは庭よふたうく池のうへへ
こゝろの横やまきこゝろのうへへ
うへへ中まはれぬいこゝろのうへへ
の水をこゝろのうへへ
こゝろのうへへ
なれぬいこゝろのうへへ
舟のまにだるこゝろのうへへ
はしこゝろのうへへ
こゝろのうへへ
よかろ所おまげこゝろのうへへ
舟のまにだるこゝろのうへへ

先花らるるもそのこゝろのうへへ
舟のまにだるこゝろのうへへ
うへへ中まはれぬいこゝろのうへへ
先花らるるもそのこゝろのうへへ
こゝろのうへへ
舟のまにだるこゝろのうへへ
うへへ中まはれぬいこゝろのうへへ
先花らるるもそのこゝろのうへへ
こゝろのうへへ
舟のまにだるこゝろのうへへ
うへへ中まはれぬいこゝろのうへへ
先花らるるもそのこゝろのうへへ

あつた。

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), likely a title or chapter heading, located at the bottom left of the page.



